

令和7年度 住吉高校 第1回 学校運営協議会

出席委員(敬称略)

○協議委員 5名

大塚 耕司(大阪公立大学 教授)、中西 洋(大阪市立阪南中学校校長)

森田 英嗣(大阪教育大学 教授)、山内 憲之(PTA 会長)、

佐藤 友亮(ベネッセコーポレーション)

○学校 11名

中山(校長)、久堀(教頭)、田仲(事務長)、稲木(首席)、内田(首席)

大門(総合科学科長)、西本(国際文化科長)、山本(進路指導部長)、左(教育相談)

山田(総務部長 司会担当)、鈴木(記録担当)

次第

1. 学校長挨拶 中山 玲代

2. 委員紹介

3. 会長・副会長の選出

会 長: 大塚 耕司 様

副会長: 中西 洋 様

4. 今年度の本校の取組みについて

(1) 本年度の学校経営計画について(中山校長)

令和7年度学校経営計画

SSH 第Ⅳ期が2年めに入り、めざす学校像をもとに、世界に貢献できる人材を育てるため、生徒につけた
い力を定め、その実現へ向けた取り組みを行う。

①学力向上と進路実現

- ・授業力向上、教員科目の横断的授業、探求活動の手法を一般強化にも取り入れる
- ・現在は、教科横断型の授業を実施することで、授業力向上のステップアップとなっている
- ・6月は授業公開月間のため、教員同士がいろいろな教科をみるができている

②国際・科学高校としての質野的な進化と成果の普及・発信

- ・両学科がともに取り組む課題研究を深化させる
- ・海外の学校との情報共有
- ・積極的な広報活動により、本校の魅力、特色を発信
(校内外の学校説明会、近隣の小中学校の行事への招待、オンラインの発表会や共同研究、出前授業、実験教室など)

③地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

現在は、クラスも増えて活気のある学校となっている。自分を律して自覚をしてほしいと願う。

- ・「自主・自律」を体現できる生徒の育成
- ・「自主・自律」と「自由」とは違うことを伝え、自分で主体的に「自律」の意味を考える
- ・学校は公共の場であることを意識し、整理整頓を意識することを伝えていく

令和10年度府立高校の入試について委員から意見聴取

(2) 総合科学科の取組みについて(大門総合科学科長)

1. 校内横断プロジェクト

- ・SSHの持続可能な運営体制をめざす
- ・SSHは総合科学科だけでなく、国際文化科も交えることで枠を超えていく
- ・各分掌とのコラボレーションを行い、人権や多様性など、学校の今まであった活動とつなげて横断的に学ぶ取り組みを実施。

2. ユネスコ・プロジェクト

- ①国際共同研究と発表機会の拡大
- ②国際文化設置校との連携強化
- ③海外研修の継続

3. Go Beyond プロジェクト(外部連携促進)

- ①科学コンテスト参加促進
- ②他校・地域連携
- ③大学・研究機関・産業界連携

4. 成果の普及・発信に関する取組

- ①科学的調査能力の育成
- ②WEB サイト・SNS により情報発信:web サイトにリンクした動画を活用
- ③地域連携イベントの促進:実験教室の継続実施

(3) 国際文化科の取組みについて(西本国際文化科長)

今年度の取組内容やその目標など

- ①Super English(1、2年生)。Super Korean を実施。土曜英語特別講習では希望者 80 名となり、たくさんの希望者が集まったため 2 グループ実施。
- ②国際文化の特色である「1 年暗唱大会(11 月)」「2 年英語ディベート大会(1 月)」、総合科学科 2 年では今年度より「科学英語」の 1 コマを英語ディベートとして実施。今年度よりネイティブ教員が 4 名体制になり、少人数で手厚く充実した英語教育が可能。
- ③令和 5 年度より、国際関係学科が大阪市立高校を含めて 13 校に増加。LETS 合同発表会とインターナショナルフェスティバルに参加。インターナショナルフェスティバルでは、4 年連続 1 位となり、今年は 5 年連続をめざす。

(4) 国際部の取組みについて(西本国際文化科長)

①国際交流行事受け入れについて

- ・例年通り、韓国からはクムダン高校、台湾からは中山女子高級中学校が来校
- ・今年度はオーストラリアのmamレアングリカンスクールより、生徒 23 名の生徒が来校し、授業体験やホームステイを行う予定

②留学生受け入れについて

- ・昨年夏からの長期の留学生の二人が先日2名の期間が終了

③海外研修について

今年度も本校主催の海外研修は新しく設定したベトナム研修を含め 4 本を実施。国や府の補助も今年は複数あり負担は若干軽くなる見込み。

- ・オーストラリア語学研修 (7/31～8/11):参加人数を 30 名に増やして実施予定
- ・ハワイ国際科学探究研修(7/22～29):探究活動を進めるもので本年度は 20 名で実施予定
- ・ベトナムハノイの Phan Huy Chu 高校訪問
: 2026 年 3 月に新規交流研修として訪問、20 名が参加予定
- ・大阪府グローバル塾:大阪府が主催しているプログラム、今年度は府内で 7 名が選抜された
- ・トビタテ Japan:文部科学省事業、1 名の生徒が海外渡航予定
- ・同窓会特別奨学金によるケンブリッジ研修:今年度まで実施予定、3 名が選抜される予定
- ・TOMODACHI Toshizo Watanabe Leadership Program
:本校生徒 1 名が全国 20 名の枠に選抜、渡米予定

(5) 進路指導部の取組みについて (山本進路指導部長)

1. 大学入試の結果と推移

国公立大学の合格数は前年から増加。東京大 1 名(現役)、京都大 1 名(既卒)、大阪大 2 名(現役)など最難関大学に合格。大阪公立大(現役 18 名、既卒 5 名)がもっとも多く地元志向が強いが、広島大など地方国公立大学にも一定数合格。

私立大学の合格数も前年から増加。特に同志社大が倍増(現役 59 名、既卒 2 名)。

77 期生は、成績上位層の頑張る姿を学年全体で共有できたことが結果につながったように感じる。また同志社大の増加は、志望校(国公立から私立へ)の切り替えをタイミングよくできた者や、1 年次から私立大志望者が多かったことが理由として考えられる。

2. 進路指導部の活動「今年度の重点的な取り組み」

今年度の指導方針として「積極的な情報発信に努め、生徒の主体性・可能性を引き出す指導を行う」を掲げている。そのため、進路指導室を整備し、生徒が利用しやすい環境を作る。

また、3 学年全体に向けての「進路指導室だより」を毎月発行し、進路に関する様々な情報を発後、一斉発信メールも活用予定。具体的に「ベネッセ模試の上位者にアンケートを取り、勉強法の一例を提示している。

(6) 生活指導部の取組みについて

1. 遅刻指導について

現時点では前年に比べて、特定の学年において顕著に遅刻数が増加しているので、学年ごとに個々に応じた丁寧な指導を引き続き行い、全体の遅刻数を減らしていきたい

2. スマホ指導について

HR 教室や集会等において注意喚起を行っている。

(7) 教育相談の取組みについて(左教育相談委員)

<教育相談>

必要に応じてスクールカウンセラー(SC)、および、スクールソーシャルワーカー(SSW)と連携し、ケース会議や支援委員会を行うなどの支援をする。

<支援教育コーディネーター>

・「高校生活支援カードⅠ・Ⅱ」のとりまとめを実施

：生徒の状況や保護者のニーズを把握し、充実した支援につなげるために作成。

5. 質疑・協議 (●質問・意見 →回答)

- 昔から「自主・自律」を掲げているが他の学校でも同じように掲げているところはある。他の学校と違う、住吉の「自主・自律」の意味。
- 公立の学校が改革を求められている。公立としての生き残りをかけて厳しくやっていくところもあるのかと感じた。今は私学の希望が半分になっている。私学と戦う中での政策を見せてもらえた。
- 進路指導。進路指導室の整理や配備、具体的にどうなっているのか？
→物の整理(郵便物や段ボールなど)を実施。また、生徒へのアンケートで進路指導室に入りにくいという意見もあった。ドアを開放して入りやすい工夫などを行っている。

6. 学校運営協議会委員より指導助言・挨拶

住吉高校の柱である「国際・科学」そして「人権」。現在の「国際」の意味は「分断・争い」というイメージに今は変わっていると感じる。生徒はどのように感じているのか。それに目を向け考えていくことが、国際の本質の一部だと理解してほしいと思う。また「科学」は全世界共通である。その切り口で世界がつながっていることを見てほしいと思う。そして「人権」はいい面、悪い面を全生徒に考えてもらえたらと思う。

7. 会長挨拶(大塚会長)

8. 校長謝辞

9. 今後の学校運営協議会の開催予定について

第2回 令和7年 10月 9日(木) 15:30 ~ 17:30

第3回 令和8年 2月 12日(木) 15:30 ~ 17:30